

令和7年度

全国学力・学習状況調査の結果について

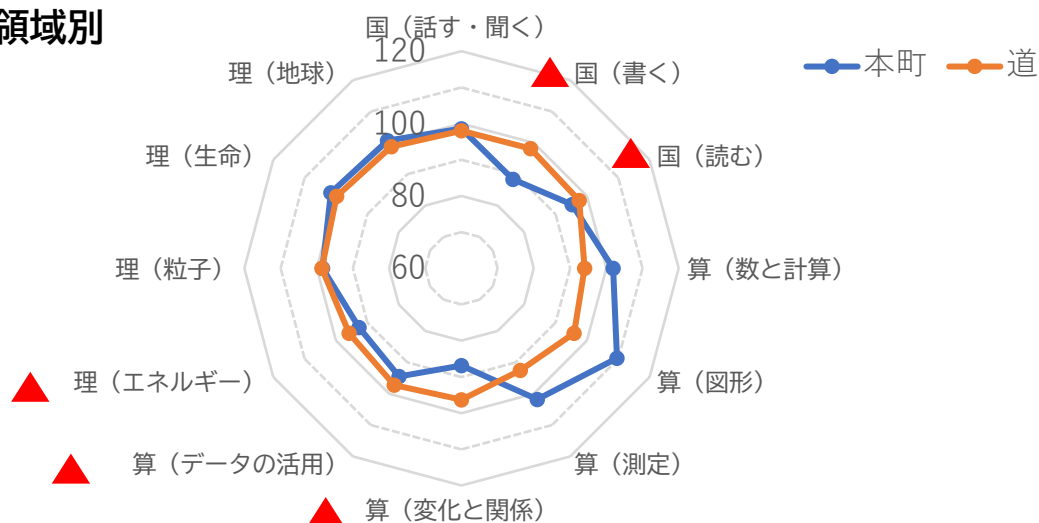
実施児童生徒
厚沢部小・館小6年
厚沢部中3年

調査目的

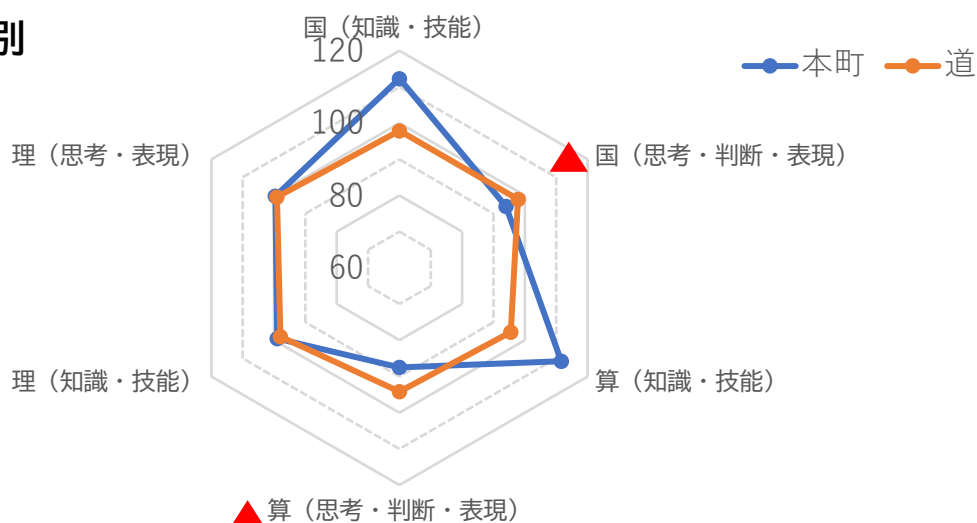
この調査は、義務教育の機会均等と水準維持向上を図るための調査です。児童・生徒の学力や学習状況の把握・分析により、教育施策の成果と課題を検証し、教育活動の充実や学習状況の改善につなげます。本調査は、学力の特定の一部・教育活動の一場面であることをご理解ください。

小学校 教科に関する調査結果（全国平均を100とする）

○領域別



○観点別



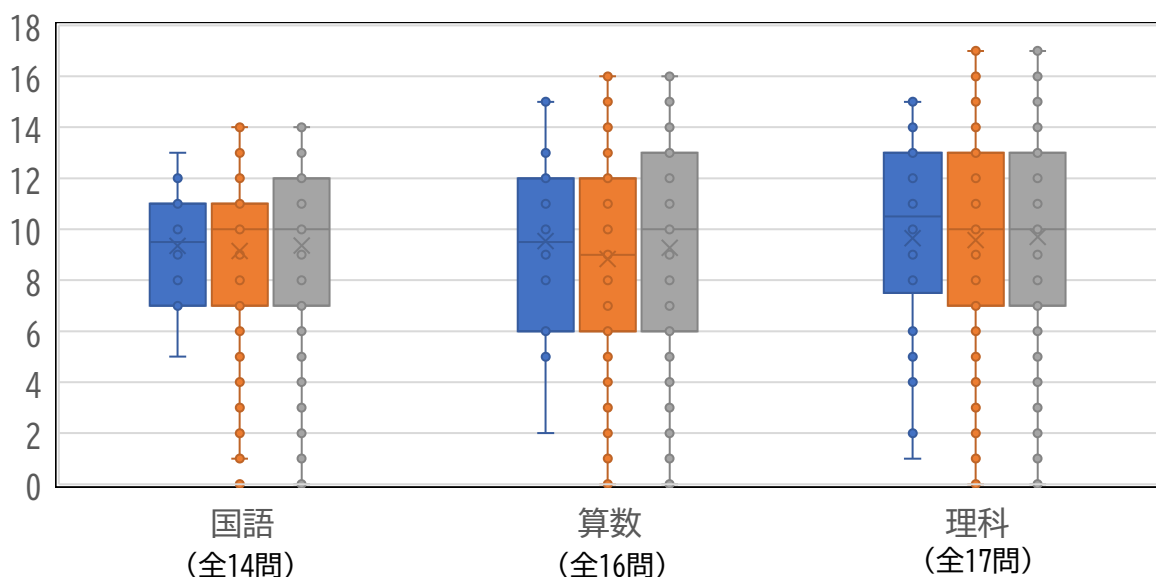
○国語「書く」、算数「変化と関係」の領域が苦手です。

○国語と算数では、「知識・技能」の項目は全道・全国平均を大きく上回っていますが、「思考・判断・表現」の項目は全道・全国平均を下回っています。

小学校 教科に関する調査結果

○平均正答数分布

■ 本町 ■ 道 ■ 全国



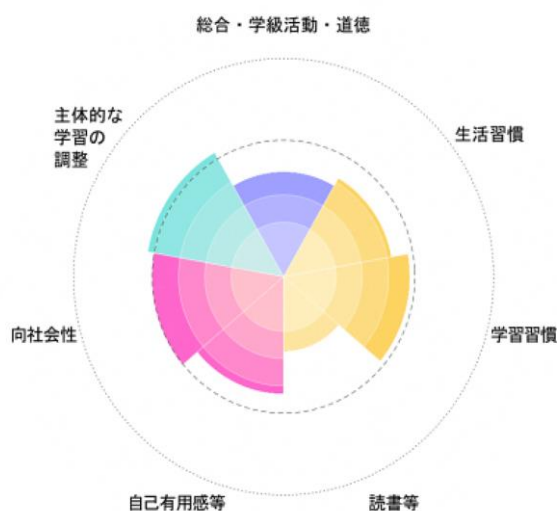
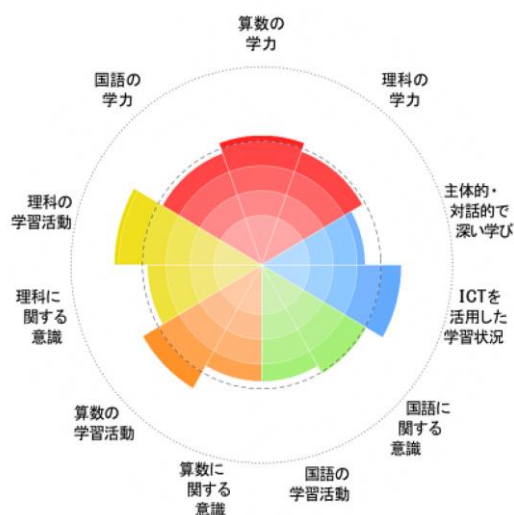
○全ての教科でスコアのばらつきは少ないと言えます。

○国語と算数では、全道・全国平均より高得点層が少ないと言えます。

小学校 児童質問調査結果

○教科を中心とした学力・学習状況

○その他の学力・学習状況



○算数と理科の学習活動が積極的に行われています。また、ICTを活用した学習が積極的に行われています。

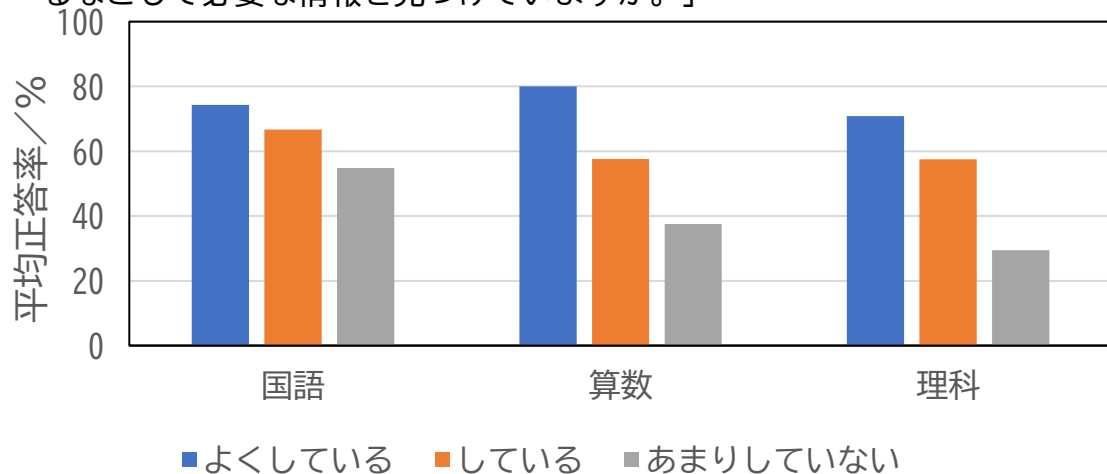
○総合・学級活動・道徳、読書等・生活習慣・自己有用感等に係る項目の肯定的回答が全国平均より低い数値となっています。

小学校 教科と質問調査のクロス集計

○国語の授業と平均正答率

質問項目（５１）

「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけていますか。」

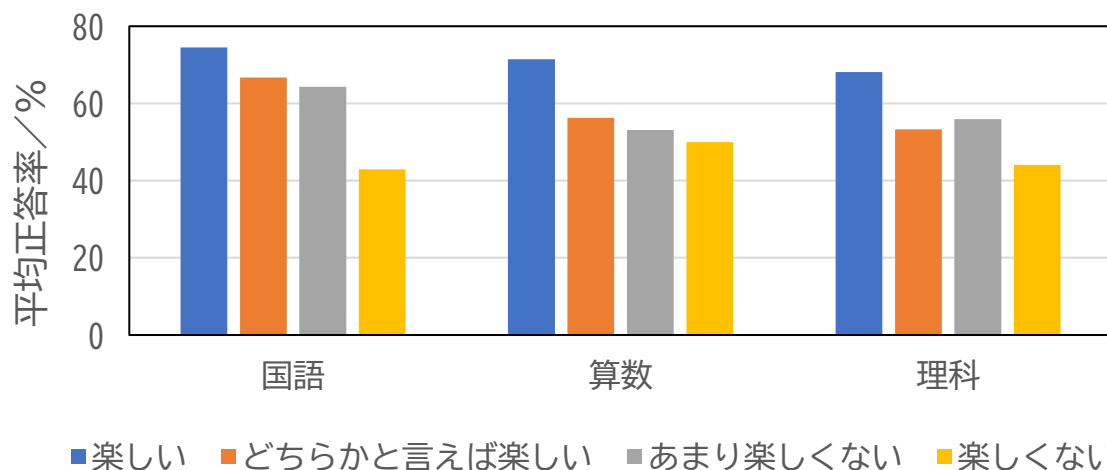


○国語の授業で、説明的な文章を図表と結びつけながら読み込めている児童ほど、平均正答率が高くなっています。

○他者との意見交流と平均正答率

質問項目（１３）

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」



○自分と違う意見を聞いて、自分の考えを深めている児童ほど、平均正答率が高くなっています。

結果から考えられる要因分析

○学力調査分析

○国語では「記述型」の正答率が全道・全国平均より低いです。特に目的に応じて文章と図表を結びつけたり、意図に応じて詳しく書く設問の正答率が低く、無解答率も比較的高いことから、総合的に資料を結びつけて考えることを苦手としていることがわかります。相手を意識して説明することに慣れていないことと推察されます。

○算数では「記述型」の正答率が全国平均よりやや低く、全道平均とほぼ同等です。特に数や言葉を用いて説明する設問や求め方を説明する設問で無解答率が比較的高く、分数の共通分母問題では、分数の概念を理解できていない解答が比較的多く、算数そのものの数学的な考え方が苦手であると推察されます。

○理科では「結果から新たな問題を見いだす」設問の正答率が低く、無回答率が高い結果でした。課題を自ら見つけ出す学習になれていないことが推察されます。

○児童質問調査分析

- 「テストの間違いを先生がわかるまで指導する」が全国平均を38pt上回っており、教職員による手厚いサポートがあると児童に受け止められています。
- 「国語が得意」「理科が得意」という肯定的に回答した児童はそれぞれ10.0pt、14.5ptと全国平均を上回っています。これは教員の指導の賜物です。これに対し、「算数が得意」、「算数の勉強が好き」の項目は9.8pt、12.3pt下回っていて、算数嫌いの児童が多い傾向にあります。これは「算数の学習を普段の生活の中で活用」が全国平均より6.1pt下回っていることと結びついており、算数の学習が日常生活と結びついていないことが要因と考えられます。

厚沢部町の対応策

○個別最適な学びや協働的な学びの充実

教員の手厚いサポート体制を活かし、個に応じた指導を充実させるとともに他者の意見を聞いて自分の考えを深める協働的な学びを充実させます。

○算数における概念理解と技能をあわせた指導

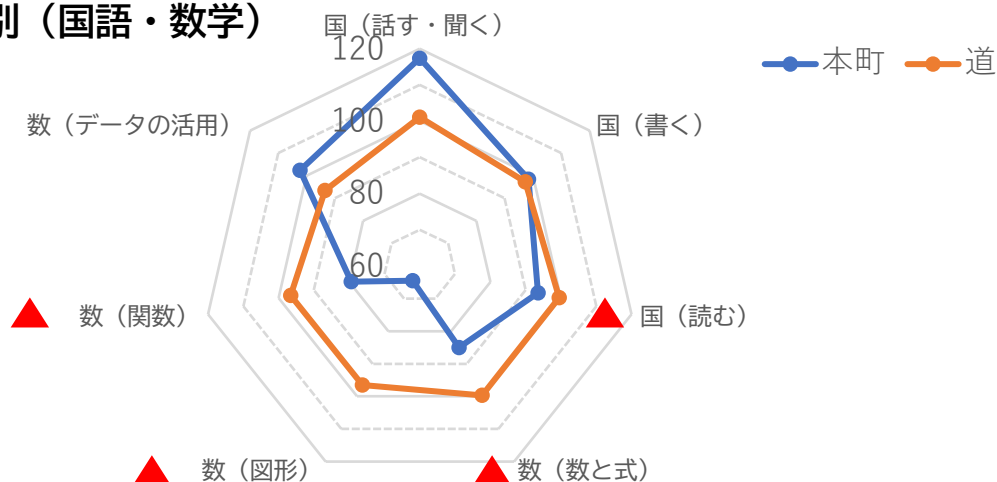
基礎・基本的な計算力は比較的身についているので、段階的な問題設定を行い、応用的な問題に取り組みます。

○生活習慣改善の取組推進

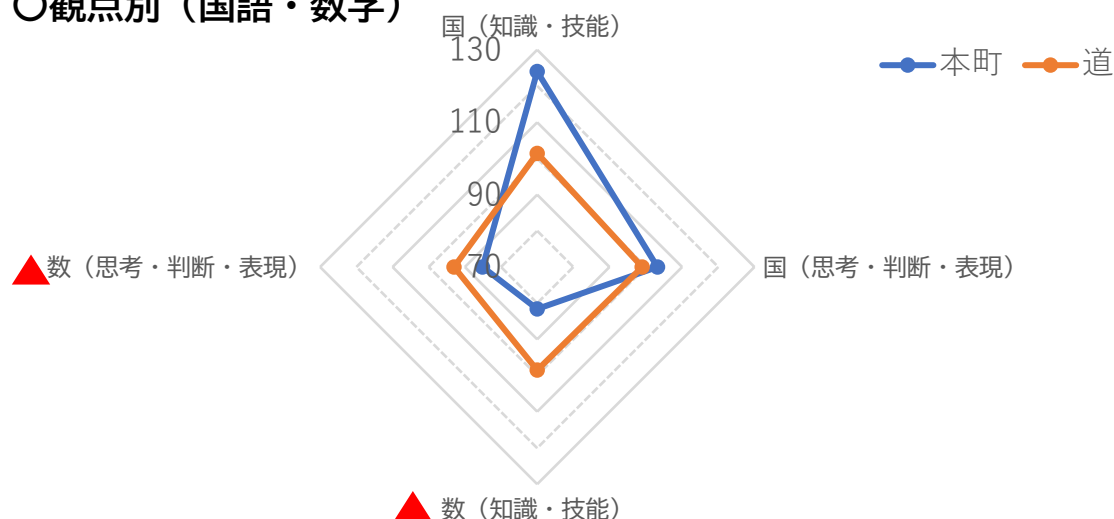
朝食をとることの大切さをはじめ、生活習慣改善の取組みを推進します。

中学校 教科に関する調査結果

○領域別（国語・数学）



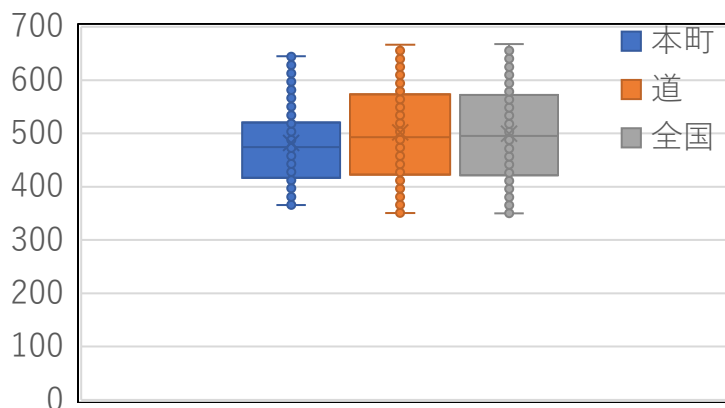
○観点別（国語・数学）



○国語「読む」、数学「数と式」「図形」「関数」の領域が苦手です。
 ○国語は「知識・技能」「思考・判断・表現」の項目が全国平均を上回っていますが、数学は「知識・技能」「思考・判断・表現」の項目が全国平均を下回りました。

○IRTスコア（理科）

新時代のテスト評価法、IRT（項目反応理論）
 テストの点数だけでは見えない本当の実力をより公平で性格に評価する方法。問題の難しさが数値化され、客観的に評価する。

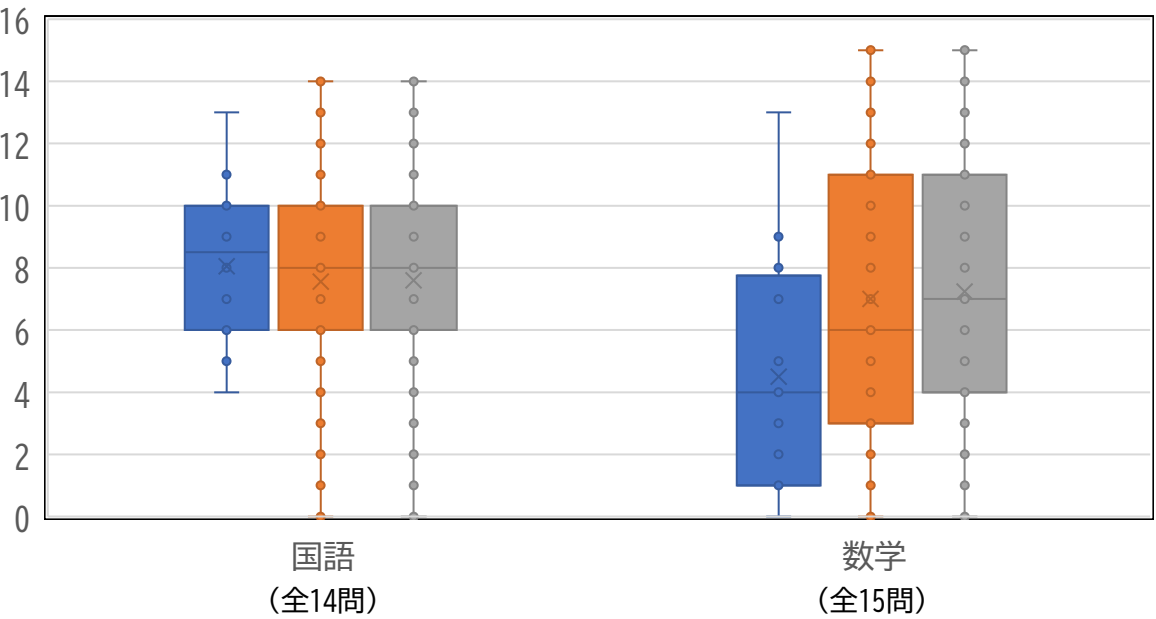


○理科は全国・北海道の分布より低い位置にあり、ばらつき具合が小さいです。

中学校 教科に関する調査結果

○平均正答数分布

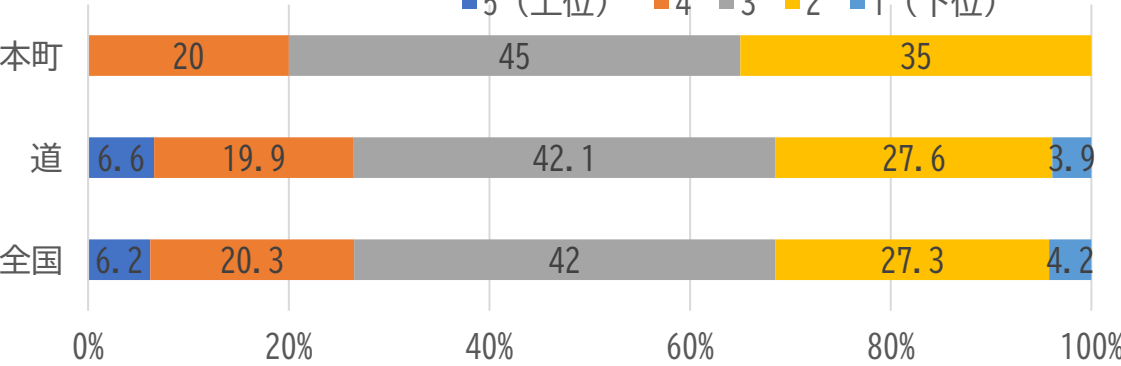
■ 本町 ■ 道 ■ 全国



- スコアのばらつきは、大半が全国平均並です。
- 国語は、上位層と下位層がなく、ほぼ全員が中位層です。
- 数学は、全国より低い位置でばらつきが見られ、上位層がほとんどいません。

○IRTバンド分布 (理科)

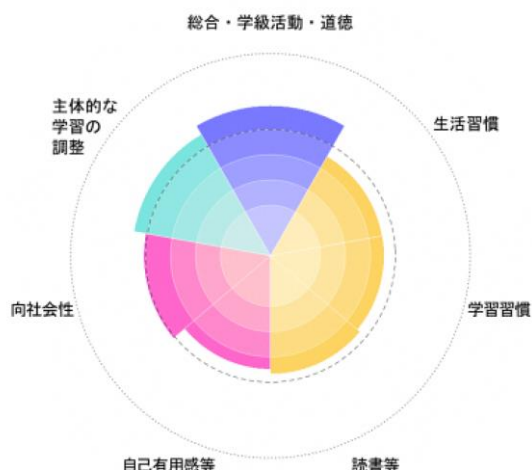
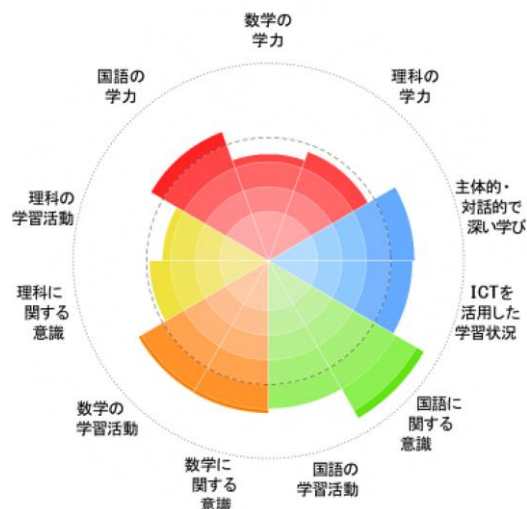
■ 5 (上位) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1 (下位)



- 上位層と下位層がありません、全体的に中位層に位置しています。

中学校 生徒質問調査結果

○教科を中心とした学力・学習状況 ○その他の学力・学習状況



○国語・数学の学習活動が積極的に行われており、意識も高いです。また、ICTを活用した学習が積極的に行われています。

○理科に関する意識、学習活動の項目が全国平均よりも低い数値でした。

○総合・学級活動・道徳、主体的な学習の調整、向社会性の項目は、全国平均よりも高い数値でした。

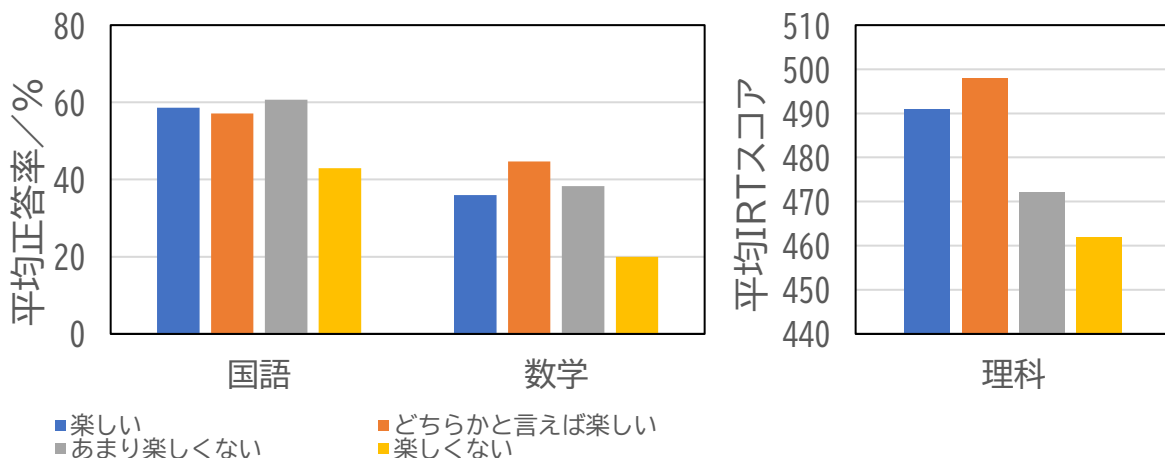
○生活習慣、学習習慣、読書等、自己有用感等に係る項目は、全国平均よりやや低い結果となりました。

中学校 教科と質問調査のクロス集計

○他者との意見交流と平均正答率・IRTスコア

(項目13)

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」



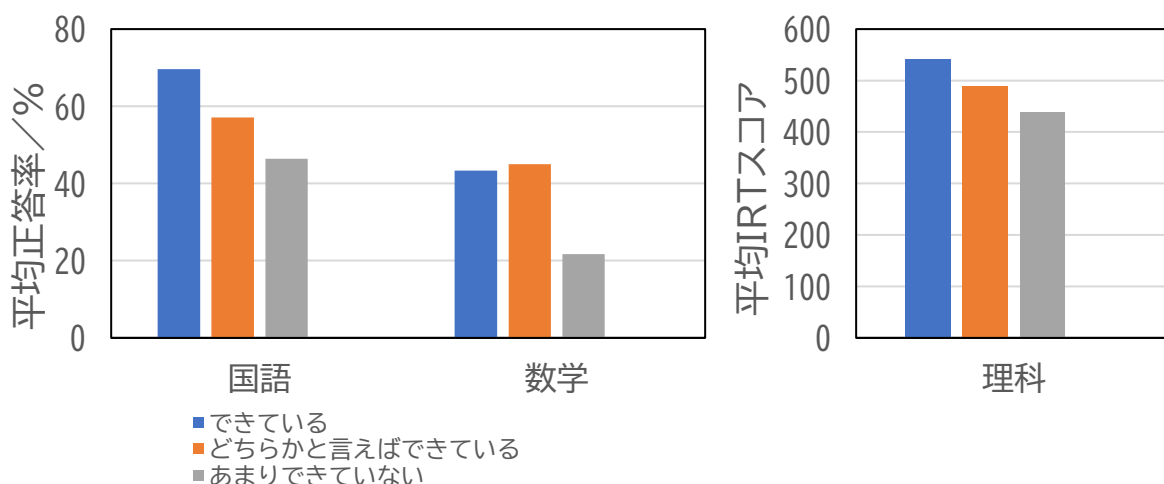
○自分と違う意見を聞いて、自分の考えを深めている生徒ほど、平均正答率やIRTスコアが高い傾向があります

中学校 教科と質問調査のクロス集計

○自己調整学習力と平均正答率・IRTスコア

項目（16）

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」

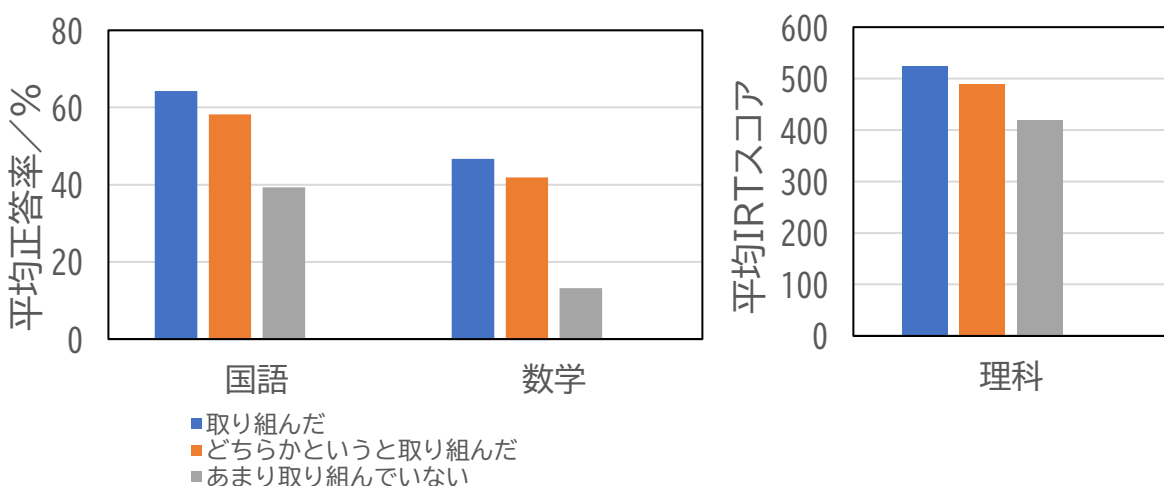


○自分の学習を自分で調整できる生徒ほど、平均正答率が高い傾向があります。

○課題解決に対する主体性と平均正答率・IRTスコア

項目（32）

「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」



○課題に対して主体的に取り組んだ生徒ほど、平均正答率が高い傾向があります。

結果から考えられる要因分析

○学力調査分析

○国語は記述問題の平均正答率が全道・全国平均より低いです。特に「根拠を明確にして考える」「読み手の立場に立って文章を整える」設問の無解答率が高く、根拠をもって説明することに慣れていないと推察されます。

○数学は「素数理解」「1次関数」の設問の正答率が全道・全国平均より低く、抽象的思考、論証の分野を苦手としています。また、証明問題の記述の無解答率が25 %以上となっており、思考の言語化に慣れていないと推察されます。

○理科は「実験・観察の根拠を考える」設問の正答率が全道・全国平均より低いです。実験・観察の意味を深く考えることに慣れていないと推察されます。

○生徒質問調査分析

○（設問13）「友達関係に満足していますか」の設問に肯定的に回答した割合が全国平均を14.4pt上回っており、友人関係が良好であることがわかります。

○（設問1）「毎日朝食を食べていますか」の設問に「食べている」と回答した割合が全国平均より24.5pt低く、生活環境に改善の余地があります。

○（設問15）「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」の設問に肯定的に回答した割合が全国平均を25.6pt下回っており、さらに（設問12）「学校に行くのは楽しい」に肯定的に回答した割合が全国平均を12.3pt下回っています。

この矛盾した結果は、休み時間や放課後が楽しいけれど、学びに対して楽しさを感じていないことが推察されます。

厚沢部町の対応策

○記述力育成プログラムの推進

AIを使った対話指導など、記述力を育成プログラムを推進します。

○ICT活用学習の推進

AIドリルや生成AIを活用し、教科等横断的な思考力の育成を行います。

応用的な問題に取り組みます。

○生活習慣を改善する取組の推進

朝食をとる割合がなぜ低いのかを調べ、要因を探るとともに生活習慣の改善に向けた取組を行います。

○メンタルヘルス・幸福感向上の取組推進

小さな達成感を得られる活動を設計します。また、複数の教員による個別面談を充実させ、個々の生徒へのきめ細かな支援を行います。